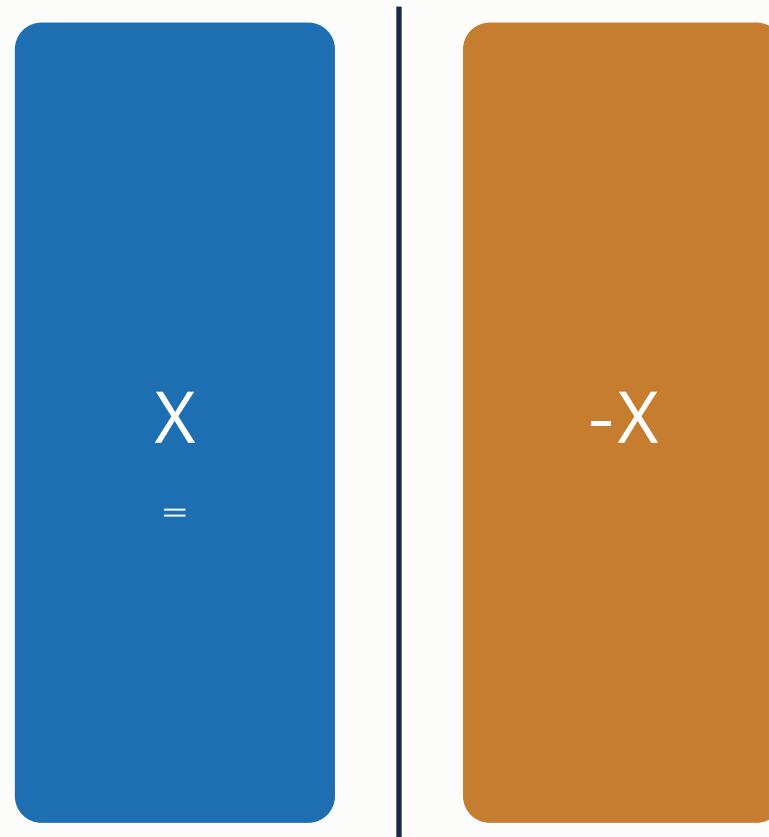


①

4. 相関的思惟の第三の方法——共感（共感）

儒教的ロゴス（Logos）：XはXであり、-Xは-Xである

共感：関係と役割を正す



共感的思惟の意味

- 共感は世界を変えた革命の動力
- 西欧が儒教の仁・恕を借用
- 関係の温度を読む力・共感経済

要点

儒教的ロゴス

- XはXであり、-Xは-Xである
- 名分を正す正名論
- 仁＝相手を自分のように思う心

技術的疎外の恨と関係の技術、凡節

- 技術的疎外が生む新たな恨
- 恨解き = 疎外集団を招き入れる
- AI時代の凡節・共感資本・信頼

浴帯と善悪の分別

- 倫理的アイデンティティの確立
- 共感を通じた善悪の分別能力
- AIと人間を分かつ最終防衛線

4. 相関的思惟の第三の方法——共感（共感）

区分	カント（西洋）	仏教（東洋）
道德原理	・義務感、理性的当為の強調 ・憐れみによる助けは道德とみなさない ・最高善の実現のための「要請」（靈魂不滅、自由、神）	・縁起（縁起）と空（空）の思想 ・慈悲（慈悲）と無我（無我） ・あらゆる存在の相互連結性
共感の概念	・直接的な「共感」より「義務」と「尊敬」に基づく道德的行為の強調 ・「要請」は実践理性の必要性に応じた概念	・「慈悲」を通じて他者の苦痛に共感し和らげようとする実践的態度 ・すべての人が変化する存在であると理解することによる共感能力の向上 ・葛藤解消の容易さ
AI時代への示唆	・AIの非感情的特性を考慮し、人間の「理性的倫理」の限界と超越的価値の探索が必要 ・AIの判断の偏向性の問題に対する「規制的原理」設定の重要性	・AI時代の「関係的知能」と「相互依存性」の重要性の浮上 ・AIの不完全性を認め、人間の「精神的超越」と「内面的省察」を通じた生存戦略

4. 相関的思惟の第三の方法——共感（共感）

区分	ヘーゲル（西洋）	孔子（東洋）
道德原理	・ 弁証法的自己実現（正・反・合） ・ 矛盾を発展の原動力と見る ・ 倫理的生の段階（家族、市民社会、国家）	・ 仁（仁）、礼（礼）などの道德的徳目の強調 ・ 修身（修身）を通じた自己完成 ・ 自己省察と実践の強調
共感の概念	・ 「愛」を通じて孤立的存在を避け、私と他者の統一された自己意識を形成 ・ 弁証法的過程を通じた関係の省察	・ 「仁（仁）」の核心として「惻隠之心」など共感能力を内包 ・ 「共感」を通じて他者の意味を投影するシステムを所有
AI時代への示唆	・ AIと人間の「矛盾的關係」を「発展の動力」として理解 ・ AIとの協働を通じた「総体的」問題解決能力の強調 ・ AI時代のリーダーシップに必要な「關係的」理解と「疎通」の重要性	・ AI時代の「人間らしさ」の核心として「共感」と「人性教育」の再強調 ・ AIが代替できない「温かい心」と「共感力」のリーダーシップ